

沼津新仲見世商店街

道路空間の再編によるシンナカ彩生プロジェクト

目的

人が自然と集まるような、心地よい空間に

新仲見世商店街の老朽化したアーケード撤去にあわせて、デザイン性と利便性を兼ね備えた空間としていく。居心地がよく、利用を促しマネジメントする組織や仕組みも整った道路空間に再編することで、人が集い、憩い、交流し、賑わい、楽しめる場の創出を目指す。

本プロジェクトのPRポスターの一部→
このような景色が日常のものになるようにまちづくりを進めます



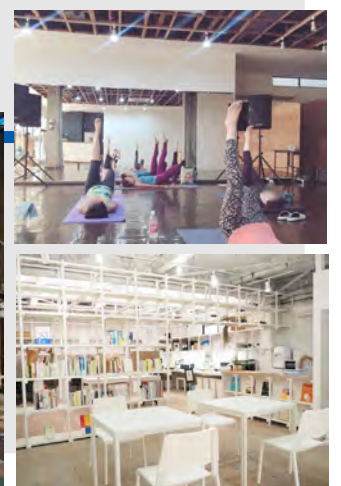
現状

危険な屋根。しかし、撤去だけでは衰退への道

昭和44(1969)年に完成した全蓋型アーケード屋根。老朽化のため平成24~26(2012~16)年に撤去検討を行うも費用面から断念。他地域の事例から撤去後の衰退も懸念された。

補修しながら使い続けるも屋根材や照明器具などの落下が相次ぎ、危険が差し迫ったものとなる。時を同じくして商店街内にリノベーションにより2事業者が誕生。これをきっかけに新仲見世エリアの価値を見直すとともに、撤去が修繕費ではなく、新たな価値を生み出す「投資」であるととらえるようになっていった。

左:照明等の落下事故 右:リノベーションで生まれた2事業者→



活動

公民連携によるハード・ソフトの整備

ハード面の整備…老朽化したアーケード屋根の撤去とLED街路灯の設置。快適な空間とするための設備(電源、wifi、ベンチ等)導入をすすめた。

ソフト面の整備…市との連携をさらに深め、商店街空間のイベント使用や来街者が利用できるパラソル・テーブルの設置など道路占用、道路使用について柔軟な対応ができるよう調整を行った。オープンエアナイト、スキマシネマへの協力。

PR…マスコミへの情報発信やネットでのPRに努めた(新聞掲載8回)。街路灯完成後、点灯式を行った。Youtubeシンナカチャンネルを開設した。

撤去工事の合間、むき出しの鉄骨の下でのスキマシネマ→



↑パラソルの設置。ここで弁当を食べる人も。

振り返り
課題

商店の集合体から脱却、より公共的な空間へ

通りが市道であるため官民協働が欠かせない事業であったが、専門家(一級建築士)を交えて定期的にミーティングを重ねて密接な関係を保ち、情報の共有を行い事業を遂行できた。

老朽化して危険なアーケードを撤去し、安全な買い物環境を提供することができた。LED化により電気代が1/3になるとともに、夜間の安全性向上につながった。

クラウドファンディングを活用してテーブルやベンチ等の備品の購入、wifi整備を行い、人が自然と集まる空間を目指して環境を整える。資金調達としてだけでなく、情報発信とともに商店街ファンづくりとしてとらえ、複数回継続して実施する。

予想以上に工事が難航、長期化した。令和3年9月には新装お披露目を予定。以降、外部の団体がイベントを行いやすいよう設備、受け入れ体制を整えていく。

街路灯点灯式→



←店頭の募金箱やネットから募金が寄せられた

HP

next
SHIN NAKA



Facebookグループ
next-shinnaka



Youtube
シンナカチャンネル

